

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

女性が輝き活躍する コンパクトシティ 創生事業

2 地域再生計画の作成主体の名称

神奈川県足柄上郡松田町

3 地域再生計画の区域

神奈川県足柄上郡松田町の区域の一部（松田地区）

4 地域再生計画の目標

鉄道の駅は、初めてその町を訪れた人の印象に大きな影響を与え、地域にとっては誇るべきシボリック的な存在である。松田町には小田急小田原線の新松田駅（乗降者数 24,366 人/日）と JR 東海御殿場線の松田駅（6,638 人/日）が近接して存在し、神奈川県西地域の北部における交通の要衝として機能しているが、駅前広場は狭く混雑し、マイクイメージが定着してしまっている。

町の人口は平成 7 年の 13,270 人をピークに減少を続け、平成 28 年 9 月で 11,042 人、人口問題研究所の推計では平成 52 年に 7,055 人まで落ち込み、消滅可能性都市とされた。両駅を含んだ都市基盤が集積する松田地区においては、平成 7 年から駅周辺住宅で空洞化が顕著であり商店街は衰退の傾向が続いている。

町の顔である駅種変地域が、現在の狭い・混雑・危険・古いといったマイクイメージから脱却し、女性の感性からオシャレで「行ってみたい！住んでみたい！」と思われる利便性も備えたコンパクトな中心市街地となる為に、町としての女性が輝くブランド力を高める。

女性が主役となってまちづくりをプロデュースし、従来とは違った女性目線で課題の解消や新たな産業の創出（雇用の創出、駅周辺の空き店舗の活用等）を行うことで、町がにぎわいを取り戻す。

松田町は女性が輝き活躍するための初期環境を、就労や子育て支援の観点からオールインワンで整備し、将来的に女性による地域商社等が自走して事業を推進する体制への取組みを支援する。

以上の取組みにより、松田町は「オシャレ＝ハピネス」「女性に優しい」「子育て支援が充実」「輝く場＝働く場がある」といったブランドイメージが定着。子育て世代等を含む若い女性人口が増加し、少子化の解消、定住・移住化が促進するなど、女性が輝き活躍するコンパクトシティを形成することを目的とする。

【数値目標 (KPI)】

	平成 29 年 3 月末	平成 30 年 3 月末	平成 31 年 3 月末	平成 32 年 3 月末	平成 33 年 3 月末
本事業で整備する女性のための施設利用者数 (年間)	6,000 人	6,700 人	9,150 人	17,400 人	22,275 人
政策的に誘導する若い子育て世帯の転入数 (年間)	5 世帯	10 世帯	20 世帯	25 世帯	30 世帯
女性による創業・起業件数	0 件	0 件	1 件	2 件	3 件

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

町の顔である駅周辺のイメージを刷新し、「オシャレ＝ハピネス」というステータスの確立とブランド力のアップを目指し、女性目線で女性が輝く「まちづくり」を推進する。人づくりと組織作りからスタートするこの事業は、雇用の創出や子育て支援策を効果的に展開するため、駅周辺エリアの町有施設を民間の活力も採り入れながら「オールワン」でリノベーションして取組み、最終的には自走可能な女性の地域商社の設立・経営を念頭に次の事業を実施する。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生推進交付金

①事業主体

神奈川県足柄上郡松田町

②事業の名称及び内容

「女性が輝き活躍する コンパクトシティ 創生事業」

町の顔である駅周辺のイメージを刷新し、「オシャレ＝ハピネス」というステータスの確立とブランド力のアップを目指し、女性目線で女性が輝く「まちづくり」を推進する。人づくりと組織作りからスタートするこの事業は、雇用の創出や子育て支援策を効果的に展開するため、駅周辺エリアの町有施設を民間の活力も採り入れながら「オールワン」でリノベーションして取組み、最終的には自走可能な女性の地域商社の設立・経営を念頭に次の事業を実施する。

- 女性のしなやかな視点・感性をキーワードに駅周辺のコンパクトシティとしての可能性を調査検討
 - ・女性によるWSの開催（意見集約）・ソフト事業の検討・組織づくりの可能性
 - ・施設ニーズ調査及び再編検討
- 女性が集い、憩い、美しくなる場を創出
 - 既存施設をリノベーションして、カフェレストラン、エステ・フィットネス・ヨガ、マッサージ各種教室等の事業を民間活力も採り入れながら展開する。

●女性が輝き活躍する機会を創出

既存施設をリノベーションして、民間企業・団体・地元商工会等との協働による起業支援、雇用マッチアップ、セミナー、ワーキングスペース、チャレンジショップ事業等を展開する。

同事業を展開するにあたっては、将来的に自走可能な女性の地域商社の設立を目指した団体を育成する。

●女性が輝き活躍する機会をサポート

上記事業に参画する女性の子育てを、同じ施設に統合設置する子育て支援センター、一時預かり及びファミリーサポート事業（英語学習等の価値を付加し地域の女性の雇用促進）を展開して支える。

*子育て支援センター及びファミリーサポートは移設し、移設後の現施設は広域的な病児・病後児保育施設の導入を検討

●子育て世帯の住まいを提供 *推進交付金対象外事業（＝官民連携事業）

同エリアへ隣接する町有地に、官民連携（0系PPP）でハイレベルな子育て世帯限定の住宅を建設する（6階建て30戸程度）。

●ICTを活用して楽々買い物

スマホ等で注文した町内や地域商店等の商品が、同施設に集約され販売される仕組みを地元商社等と連携して構築する。

平成28年度から開始した移動販売車両（くるまつくん）の巡回及び基地

→各年度の事業の内容

初年度 女性の活躍が本町の将来へのまちづくりに必須であることを認識し、意識改革への第一歩を踏み出す。

本町では、地域との協働を推進するため自治基本条例を策定中だが、男女共同参画プランや女性活躍推進計画が未策定である現状を改善するとともに、女性目線のまちづくりへ取り組んでいく。特に、人材育成、組織づくり、ソフト事業を効果的に展開するための可能性や課題の抽出、向かうべき方向性を調査・議論して定める。併せて本事業を効率的に進めるために、駅周辺の町有施設のあるべき姿を再編も視野に調査・検討する。

2年目 1年目の調査・検討結果を基に、女性目線のまちづくりの基礎を成す計画を策定する。計画は主に女性のワークライフバランスに配慮しつつ、具体的に女性が輝くための施策、これを支えるための支援策（男女共同参画プラン・女性活躍推進計画）を網羅し、本事業と歩調を合わせて位置付けていく。また、駅周辺はコンパクトシティとして賑わいを創出し、女性目線のイメージアップを図ることと本事業を円滑に推進することを目的に公共施設（町有施設）を計画的に再編等する事業計画を定め、特にランドマークとして整備する施設については基本的な設計を行う。

人材育成や組織の造成については、将来、自走できる女性の地域商社を念頭に、民間ノウハウを活用しながら講演会やミーティングの開催などにより意識啓発を進め、地元女性や関係機関・団体で組織する会議体（仮称*女性活躍推進会議）を立ち上げる。

なお、本交付金の対象外ではあるが、本事業に隣接するエリアに子育て世代に限定した町営住宅を官民連携手法（0系PPP）で建設する。本年度は、子育て世帯の女性の目線で設計・施工に取り組み完成を目指す。

3年目 2年目に策定した女性活躍のまちづくりに関する計画等に基づき、人材育成を加速化させ、地域商社の母体となる組織を組成する。そのなかで、地元商工会等と連携した買物対策や創業支援、空き店舗対策等を女性目線で提案、実行に移す。

同時に、この組織が民間ノウハウを採り入れ展開する事業の計画に適合した既存施設のリノベーションを実施する。

本年度実施するリノベーションは、現在利用していない町有施設を子育て支援センター・ファミリーサポート・一時預かり機能を総合的に備えた女性が集い、憩い、学べるカフェとし、併せて人材育成・雇用マッチング・講演などの開催が可能なスペースを設置する。施設は女性が活躍するランドマークとしてハイクラスな意匠を凝らし、立地を生かして注目を集める整備を行う。

なお、本交付金の対象外ではあるが、本事業に隣接するエリアへ子育て世代に限定して建設した町営住宅への入居を開始する。

4年目 3年目に整備された拠点において、女性が集い、憩い、支えられていく事業を本格的（通年）に展開することで、新たな賑わいが創出されていく。また、女性が美しく健康になるスポーツ（フィットネス・ヨガ・マッサージ等）総合施設を民間企業と連携して設置することで、さらなる相乗効果を見込む。

5年目 本事業の最終年度として、女性が輝き活躍するための事業（ワーキングスペース等）を展開することによって、オールインワン先駆的な拠点が相乗的にフル稼働し、女性目線でオシャレな駅周辺のコンパウンドシティがより輝きを放つ。そして、駅周辺と併せて松田町に対する全体のイメージが「ハイクラス」→「女性に力を入れている」→「住んでみたい」という好転を果たす。

③事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

従来の子育て支援センターでは、収入（稼ぐ）の仕組みは無かったが、カフェや就労支援等の付加サービスを有料で提供して得る収入を自主財源として確保。さらに5年後には業務を町から委託される体力を備えた女性の地域商社へ移行することで、稼ぐ体制と独立採算制を確立する。

【官民協働】

本事業は、女性目線のまちづくりで駅周辺エリア、ひいては町としてのイメージ・ブランド力アップを目指すものである。現在、本町には、このような事業を構築していく基盤が無いことから、知見・実績を有する民間団体・企業のノウハウを十分に吸収していくプロセスが求められる。最終的には、本事業を各種民間企業等との連携で展開していく、本町初、女性による地域商社を設立する。

本町が将来的に持続していくためのキーワードは「女性目線のまちづくり」であるという意識改革と施策の転換を図るため、地域の人材を掘り起こし、関連団体・企業等と協働した組織づくり、運営をコーディネートする。また町有施設等を効果的に整備し、事業が軌道に乗って商社が自走するまでの期間は時限的な財政支援を行う。

本事業完了後においては、同時並行で進行し 10 年後に完成を目指している駅周辺のコンパクトシティづくりへと物語をつなげていく。

民間事業者は、起業としての強み（ノウハウ・ネットワーク・広告力）を生かし、スポーツジムやコワーキングスペースの顧客を確保して、本事業エリアに賑わいと活力をもたらす。併せて、地域の企業や団体と連携して事業を推進し、そのノウハウを承継するなどビジネスとしての先導・指南役も果たす。

金融機関においても、カフェ・スポーツジム・コワーキングスペース等を運営する民間企業等や、女性による創業支援に係る起業家への資金調達において支援（融資）を行う。また、女性の起業化に向けたセミナーや相談会等を開催し、経営面で必要な技術的アドバイスを行う。

その他の連携として、駅周辺のまちづくりについては、新松田駅を所管する小田急電鉄を各種審議会等に加えて検討を進めている。本事業等の取組みを連携して進めていくなかで、莫大な効果が見込める電車利用者への宣伝を行う。

【政策間連携】

本事業のコンセプトである女性目線というキーワードは各種施策に浸透させ、推進していくこととなる。

特に、子育て支援、就労支援による労働力確保、新たな産業の創出、健康（未病改善）増進、スポーツ推進といった施策がオールインワンで絡み合い実行するため、相乗効果が見込める。

連携 1：子育て支援×定住・移住施策

本事業においては、女性の就労活動やスポーツ等のレクリエーションを楽しむ際に、子どもを預けることが同施設内で可能となる。また、道路を挟んで隣接する町有地に子育て世代に特化した町営住宅を建設（30 世帯程度）することで、女性の活躍・子育て支援の推進を両輪で協力に押し進めることとなる。

連携 2：就労・企業支援×空き店舗の解消×産業の活性化

本事業は、女性が輝く（起業・就労）ことを目指すが、セミナー等を通じてスキルと意欲を向上させ育成された人材が、町内で増加傾向にある空き店舗にて起業することや、（顧客として）女性目線により町内商店への商品・サービスへアドバイスをしていく。このような提言した創業によって、町産業の構造に変化をもたらす、新たな産業の創出など活性化が図られる。

連携 3：スポーツの振興×健康増進×未病改善

本事業エリアに民間企業が展開するスポーツジムでは、フィットネス・ヨガなど女性のトレンドである運動を展開することで、賑わいを創出するだけでなく、女性の健康増進に大きな影響をもたらす。特に神奈川県や県西地域の自治体で推進している未病改善の拠点としても位置付け、圏域で

の効果を増強させる。

ワンストップ化について

本事業エリアには、集い、憩い、学び、美しくなり、支えられ、輝くという女性にとって大事なすべての要素が網羅されている。隣接して子育て世帯住宅も完備し、駅に近接するアクセス良好なワンストップでシンボリックな拠点となる。

【地域間連携】

駅周辺エリアは県西地域北部の交通の要衝であり、同駅の利用は近隣市町が8割を占める。駅前広場からは路線バス、タクシー等が放射状にネットワークを構成しているなど、近隣市町の住民がこのエリアを利用していることは間違いない。この特性を活かし、本町のみならず、沿線や近隣市町の女性をも本事業へ参画する仕組みを構築する。

【その他の先導性】

近年、女性特有のしなやかな感性は、行き詰まりを見せる世情を打開するキーワードとなっている。同時に将来的な人口減少・労働力不足といった課題を解消するうえでも女性の輝きは不可欠である。

子育て支援や、女性の就労支援等の取組みは、散在して単発で実施しても相乗効果を見込んだり、インセンティブを加えたりすることは困難である。そこで、行政は先導役として環境整備に徹しつつ、これら事業をオールインワンで同時期に多角展開することは新規性（話題性）があり、大きな成果を見込むことができる点が先導的といえる。

④事業実施機関

地域再生計画認定の日から、平成33年3月31日まで（5ヵ年度）